

【つながり & 共生】

日本×バングラデシュ ～異なる正義を持つ人々と共に生きていくためには～

【実践者】

氏 名	鬼山 彩緒利	学校名	松戸市立横須賀小学校
担当教科等	道徳・総合・国語	対象学年（人数）	6年2組（33名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年10月 ～ 11月（8時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

道徳・総合・国語

02 単元名と単元目標

単元名：日本×バングラデシュ ～異なる正義を持つ人々と共に生きていくためには～

単元目標：事象を多面的に捉え、様々な立場から見た正義を想像しながら、自分の考えを持つ。

関連する学習指導要領上の目標：

国語科（道徳・総合の観点では評価は行わない）

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見と区別するなど、話の構成を考えることができる。
② 思考・判断・表現	互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	バングラデシュの学生デモを、様々な立場に立って多角的に捉えようとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

〈児童の実態〉

本学級には授業中に「ロシア」や「北朝鮮」「中国」などの国名が出るとマイナスイメージをつぶやく児童がいる。日々の中で形成された偏見のようなものが児童に根付いているのではないかと感じている。国単位で世界を見ており、自分の暮らしを常識として捉え、そこに暮らす一人一人の声を聞こうとしていないようにも思える。自国の当たり前、自国の正義を基準に物事を判断している児童に、異国の生活は衝撃的なものである。しかし、そこに住む一人一人の声に耳を傾け、自分の当たり前や正義をもう一度

見直す機会を持ってほしい。その人の正義は立場や環境に大きく影響を受ける。異なる正義を持つ人々とどのようにつながっていくのか、じっくり考え、答えのない問いに向かって対話を続けてほしい。

〈指導観〉

本単元では、主に3つの軸を立てて授業を行う。「総合：バングラデシュの文化や現状との出会い」「道徳：国際理解教育」「国語：哲学対話」を通じて、異なる正義、異なる価値観の中から自分の考えを形成する機会、それを発信し対話する機会を設ける。3つの軸それぞれのつながりを意識しながら授業を展開する中で、児童が考えを深化させる姿を記録にとめる。

「総合：バングラデシュの文化や現状との出会い」では、児童とバングラデシュの出会いを大切にしたい。学級には、海外の国とのつながりが全くない児童が多い。そんな児童にある種強制的に異国と出会わせる本単元では、児童が初めて受ける印象を丁寧に扱う必要がある。ともすると、マイナス感情を植え付けかねない可能性を十分に理解し、日本と異なる部分ではなく、似ている部分に焦点を当て、紹介していきたい。

「道徳：国際理解教育」では、バングラデシュを皮切りに児童が世界に目を向けるような役割を担うよう展開する。児童の見方がぼんやりとした世界の国々から、バングラデシュを通じて見た現実味のある世界の国々へと深化していくようつながりを意識させたい。

「国語：哲学対話」では、児童同士の対話の方法に焦点を当てる。答えのない問いに対して、「自分の考えをもつ」こと、さらに「相手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」を大切にする。児童自身が自分の考えの変化を自覚できるように、毎時間ふりかえりの時間を設け自分の考えの変化を記録させるようにする。

より良い対話のためには、誰もが安心して考えを共有できる雰囲気が必要である。そのような雰囲気を作るために、毎朝全員が話す機会をつくる。何気ない質問に対する考えを答えるだけではあるが、1日1回は自分の意見を学級の全員に発信する場を設けることに価値を置いている。これは対話の雰囲気づくりとして継続して行う。

05 単元計画（全8時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1	6-2 ビンゴ	転入生とのクラスビンゴを通して、友達の気づかなかった素敵などころに気づく。	・児童が質問用紙に答える。 ・ビンゴシートに友達の名前を書く。 ・質問に対する答えから誰のことか当てる。
	資料・教材など	質問用紙・ビンゴシート	
2	バングラデシュってどんな国？	バングラデシュの文化を通じて、文化の違いによる考え方の違いを知る。	・バングラデシュの文化を知る。 (国の概要、言語、施設、食事、生活、考え方) ・日本と異なる食べ方について、ロールプレイを通して考えを深める。 ・バングラデシュの学校のインタビューを視聴し、自分たちと似ていること、違うことを発表し合う。 ・授業の感想とバングラデシュについてもっと知りたいことを書く。
	資料・教材など		

	・文化を紹介するパワーポイント ・エクマツトラの子どもたちの動画		
3	バングラデシュの光と影	家事使用人を取り巻く人々の話を聞き、自分の正義を振り返る。	・家事使用人について知る。 ・自分の1日と家事使用人の1日を比較する。 ・家事使用人ワークを行う。 ・本当に悪いのは誰なのか話し合う。
資料・教材など 家事使用人ワーク・シャプラインールの講義資料			
4	その情報、本当に大丈夫！？	情報を収集し活用する際に必要なことは何か考える。	・道徳教科書掲載のコロナ禍に起きた事象を題材に情報を入手する際に気をつけるべきことを話し合う。
資料・教材など 道徳教材「あなたはどうか考える？」			
5	本当に募金で世界は救えるの？	国際協力の在り方を考える。	・道徳教科書掲載の JICA 職員岸田さんの話を読む。 ・岸田さんのすごいと思うところを話し合う。 ・岸田さんはなぜ募金ではなく、遠く離れた異国の地に通い続けたのか話し合う。
資料・教材など 道徳教材「エンザロ村のかまど」			
6	悪いことって何？	常識的な「悪い」から、状況によって、または人によって判断が分かれるものに出会い、その是非を話し合う。	・絵本「すてきなさんにんぐみ」を読む。 ・悪いことはどんなことか話し合う。 ・さんにんぐみはいい人か、悪い人か考える。 ・自分の考えを発表し合う。 ・相手の意見に質問したり答えたりする。 ・ふりかえりを書く。
資料・教材など 絵本「すてきなさんにんぐみ」			
7	暴力って、そもそも何？	様々な状況の暴力を想像したり、自分の考えを伝えたりすることで、暴力に対する考えをもつ。	・事前アンケート結果を見て、自分の経験を話す。 ・ひとをぶってもいいと思うか、という問いに対して自分の考えを持つ。 ・全体で話し合う。 ・暴力はなにかの役に立つか、という問いに対して自分の考えを持つ。 ・全体で話し合う。 ・バングラデシュの学生デモについて知る。 ・学生デモはいいことか、悪いことか自分の考えを持つ。 ・黒板にネームプレートを貼り、友達の考えを知る。
資料・教材など ・事前アンケート 「君がらんぼうになるときはどんなとき？」「あばれだしそうな自分を止められる？」 ・こども哲学「暴力って、なに？」（日本版監修：重松清）			
哲学対話の実践			

グループに分かれて「〇〇とはそもそもどういうことか」というテーマで哲学対話を行う。 話し合いをする際には自分の実体験や具体例を取り入れることを意識する。 また話し合いをしているグループを観察する場を取り入れた。話し合いがどのように進み、どのように深まっていくのかに注目させ、話し合いの方法について学んだ。			
8 本時	学生デモは、いいこと？悪いこと？	学生デモの是非を語り合い、様々な立場から見た正義を想像しながら、自分の考えを持つ。	・絵本「すてきなさんにんぐみ」を読む。 ・悪いことはどんなことか話し合う。 ・さんにんぐみはいい人か、悪い人か考える。 ・自分の考えを発表し合う。 ・相手の意見に質問したり答えたりする。 ・ふりかえりを書く。
資料・教材など ・学生デモを説明するためのパワーポイント ・学生デモ取材した映像（TBS NEWS DIG「報道特集『これは学生が導いた革命です』首相が国外逃亡、、、バングラデシュの政変、現地で何が？」）			

06 本時の展開（8時間目）

本時のねらい：

学生デモの是非を語り合い、様々な立場から見た正義を想像しながら、自分の考えを持つ。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入（7分）	1 前時の振り返り ○バングラデシュの学生デモに関するパワーポイントを見て、事象の概要をつかむ。 T：さあ改めてこれを見て、みんなはどう思うかな？ バングラデシュの学生デモはいいこと？悪いこと？ C：うわあ、難しいな。どうしよう。 2 5秒の直感で問いに対する考えを書き、自分の考えに近い場所にマグネットを置く。 T：まずは5秒の直感で、自分の考えを書いてみて。 ○自分の考えをワークシートに書き込む。 T：それでは、自分の考えに一番近い位置にネームプレートを置いてみよう。まずはこの2列からいこう。 C：えー！そこか、、、。 C：迷うけどここらへんかな。 ○黒板に「いいこと」「悪いこと」の座標軸が書かれている。自分の考えに近い場所にマグネットを置く。 （悪いことが3分の2を占めると予想する。） ○級友がどのように考えているか把握する。 3 ChatGPT が作成した、学生デモに賛成派と反対派の文章を読み、自分の意見の根拠を持つ。	・前時で触れられなかった警察の対応も補足する。 ・黒板に座標軸を書き、児童自身にマグネットを置かせる。 ・文章を読み、線を引くことに時間がかかる児童が

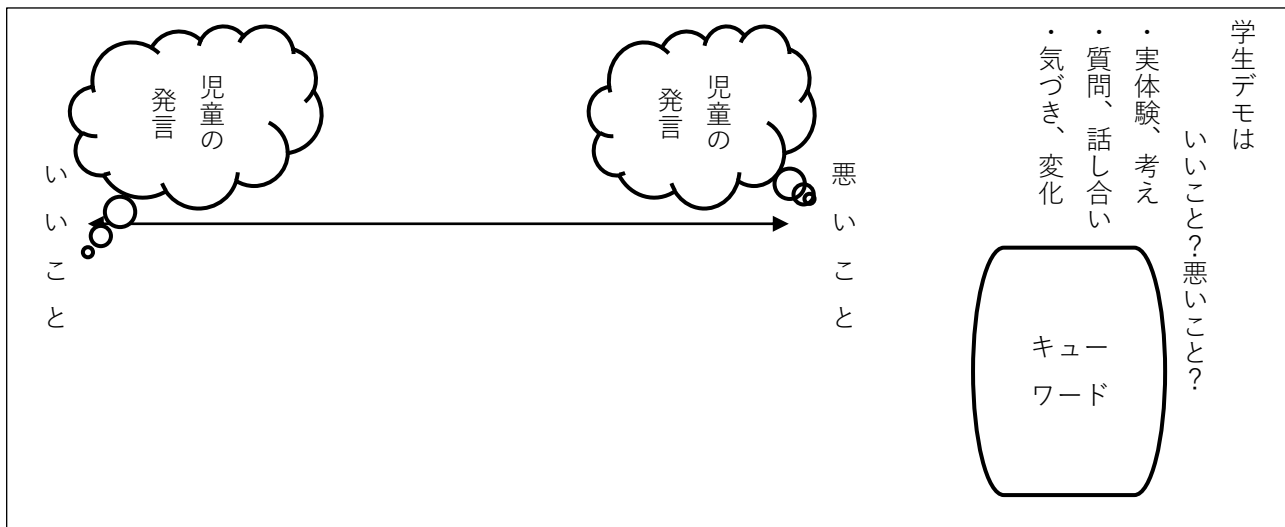
展開 (35分)	○ChatGPT の文章は教師が音読する。 ○納得・共感するところに、線を引くよう促す。 4 班で意見交換を行う。 ○班で意見を交流する。 ○話し合いを進める手順を確認する。 ① 自分の考え、具体例を話す。 ② 質問し合う。 ③ 気づきを話し合う。 ○哲学対話で使用した“キューワード”を使うように促す。 「たとえば」「本当に?」「たしかに」「だけど」「私も」「他にも」「立場を変えると」 ○立場を変える視点を提示する。 T: 班の中でいいことだと思う人? 悪いことだと思う人? もし、全員が同じ立場だったらどうするのだったけ? C: 立場を変える! T: そうそう。今回はどうやって立場を変えるの? C: いいことだと思う人と、悪いことだと思う人。 T: そうだね。そしてもう一つ、わかるかな～。みんなはどこに住んでいるの? C: 日本! C: そうか。でも今回はバングラデシュの学生デモだから。 C: バングラデシュの人の立場! 5 全体で意見を交流する。 ○班で話し合った内容、悩んだ内容を全体で共有する。 T: 班で話し合う中で、何か悩んだことある? (いいこと) C: 暴力はダメってわかっているけど、いい国にするためには仕方がなかったのかもしれないし。 C: 裁判所は権力があるから、市民がお願いしても、何もしてくれない可能性だってあるじゃん。 (悪いこと) C: 実際に関係のない人が亡くなっている。 C: もしこれが解決されたとしても、バングラデシュの今後の未来が不安だと思う。 C: 暴力で解決される社会って怖くない? (その他) C: でもどうしたらよかったのかな。 C: 暴力でなければいけなかったのかな。 6 現地の人々の声を聞く。 ○「被害者の声」「学生の声」「市民の声」をまとめた映像を見せる。 ○どんな言葉が印象に残ったか問う。	いるため、十分に時間を取る。 ・ キューワードを使っている児童を全体場で褒める。 ・ 児童の発言を板書する際には、内容を簡潔にまとめる。 ・ 考えの違いがわかるように板書する。 ・ 児童の発言を交通整理しながら、話し合いを深める問いかけをする。 「本当に他のやりかたはあったのかな」 「もし、自分が学生だったらどう感じる？」
---------------------	---	---

	C：学生ボランティア、自由、平和、交通整理、みかじめ料 C：市民は学生デモに感謝しているんだ。 C：学生だけでなく、様々な人が苦しんでいた。 C：教授まで学生デモをサポートしていたなんて。 7 現地の様々な人の声を聞いた上でもう一度自分の意見とその根拠を持つ。 ○ワークシートに考えを書く。 (いいこと) C：平等な社会でなかったら、自分も参加してしまうかもしれない。 C：自分たちが生きていくためには必要なことでもある。 (悪いこと) C：不平等な社会はだめだけど、暴力で何も解決されない。 C：言葉で話し合うのが一番いい。 C：もしこれをよいとしたら、戦争だってよいことになってしまう。 (その他) C：暴力は絶対にダメだけど、正義のためなら良いのかもしれない。 C：正義のためなら人が亡くなってもいいのかな。 8 班で意見交換を行う。 9 全体で意見を交流する。 C：暴力はダメだし、人を傷つけていることは事実。だけど、学生たちが絶対に悪い、というわけではないような気がした。 C：初めは「なんでこんなことするんだろう。」って思っていたけど、それぞれの正義があって、理由があって暴力を使っているのだと思った。 C：暴力は時と場合によって意味を持つのかもしれない。でも、今後のバングラデシュは平和になるのだろうか。	・理由を書くことが難しい児童には、対話を通して意見を引き出す。
まとめ (3分)	10 ふりかえりを行う。 ○ふりかえりを紹介する。 C：暴力は絶対にダメ、何の役にも立たないと考えていたが、それぞれの考えがあり、立場があることが分かった。 C：世界でも戦争やデモが起きているが、なぜそれが起きているのか考えていきたい。 C：今後のバングラデシュがどう変わっていくのか、気になった。	・今回話し合った事象が、バングラデシュに限ることではないこと、これから世界を様々な立場で見てほしいことを最後に伝える。

使用する資料・教材：

- ・学生デモを説明するためのパワーポイント
- ・学生デモを取材した映像（TBS NEWS DIG「報道特集『これは学生が導いた革命です』首相が国外逃亡、、、バングラデシュの政変、現地で何が？」）
- ・ワークシート

07 板書計画



08 評価規準に基づく本時の評価方法

行動観察（授業中の発言）、ワークシート記録観察

09 学校外との連携（※該当のある場合）

特になし

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

【第1時】

今まで知らなかった一面を知ることができた、転入生のことをもっと知りたい、等の感想があった。

【第2時】

- ・日本とは違う文化だけど勉強があまり好きではない子や、電車がある場面では似ているところもあった。
- ・バングラデシュの人たちは、やさしくて人のために国をよくしたり、サッカー選手を目指している人もいたのすごいいいと思いました。

- ・何時間も遅れていいってことがいいなと思った。

- ・（R児）前から外国には少し抵抗感があったけど、意外にみんなやさしいことがわかった。

↑外国に対する抵抗感の強いR児の学びの軌跡を見つめていこうと考えた。

【第3時】

- ・こんなことが世界でおきているなんておどろいた。この状況を救ってあげないかわいそう。でもどうすればいいのかと思った。

- ・なんでそんな制度をつくったのか気になる。他の国にも制度があるのか気になった。

- ・今回でいうルビナ（家事使用人として出されようとしている少女）の主張があまり出なかった気がする。その人の意見が大事だと思った。

- ・この家事使用人の問題を解決（完全に）するのは不可能だと思った。この問題は世界でも起こっていると思った。

- ・まだ世界にはバングラデシュの家事使用人のように働かされている子どもがいることが分かった。改善するには難しいけれど取り組めることはあると思う。

・日本にはそういう制度がないのが当たり前だけど、自分たちが知らないところで当たり前じゃないことが当たり前のように起きている。正直、先生がその人になりきってと言ったけど、なりたくてもなりきれなかった。一人でも多くそういう人を助けたい。

・(R児) 日本人はバングラや他の国のようなことはあまりないけど、ないからこそそういうひとたちがいると考えて、ごはんを食べれない人もいるから、なるべく残さないとか、常に生活が苦しいひとがいると考えながら、私たちも生活しなくちゃならないと思った。

【第5時】

・(R児) 今できることはあまりないし、岸田さんみたいに手助けすることはむずかしいけどごはんをなるべくのこさない、せつやく、せつでんをしっかりやりたい。(しょうじきむずかしい)

授業中の発言でも「結局これしかできない。」と、ややあきらめの感情を口にしていた。

【外国語】

本単元では、おすすめの国を紹介しようというゴールのもと、児童自身で国を選択した。児童に身近なアメリカや韓国に偏らないような工夫をしたことで、ケニア、マレーシア、タイ、ベリー、ブルガリア、カンボジアなど、児童が選んだ国は多岐にわたった。

・R児はベルギーを選択。理由はチョコレートが好きだから。その視点からベルギーの建物やお土産に着目していたが、日本と異なる文化に触れる度合いは浅かったように思える。

【第7時】

・(R児) フリーダムファイターがまた復活して不平等になったけどまだ関係のない人もいるわけだから、関係のない1000人の人がなくなってしまったから、それで殺しちゃうのはあんまよくないと思うから。

バングラデシュの学生側の立場を考えつつも、事実を見つめ自分の考えを形成している。少しずつ、両者の立場の気持ちを考えられるようになってきたように思う。

【第8時】

・全てが悪いとは決めつけてはいけない。客観的に見るのではなく内面を見る。

・暴力は暴力だが、政治を変えるため、国を変えるため、市民を守るための暴力は悪いことと目先で決めつけられるものではないと思った。

・暴力についてはまだ深められそうだし、今は一つの国の話をしているけど、国際問題は世界の中でたくさん起きているから、一人一人の意見を変えて解決したいと思いました。

・他の国のこともちゃんと考えられる人になりたいと思った。

・とりまバングラの人みんなが幸せになってほしいと思った。

・暴力はたしかに悪いこと。だけどそれをするにも深い理由がある。バングラの学生デモも1000人なくなっているから悪いけれど、そうなっちゃったのは国がフリーダムファイターを復活させたから。暴力がおこる理由も考えようと思った。

・初めはすぐに悪いことだと思っていたけど、立場を変えて、もし日本が月収が少なくて不平等なことがおきてたら、自分も学生デモに参加していたかもしれないし、むずかしいです。

・(R児) 最初は「暴力はしょうじきよくはない」と思っていたけど、それにはちゃんと暴力をしてしまった背景がきっとあるはずだから、そんな人たちとしっかり向き合えるようになりたい。

単元当初は外国に対する抵抗感を持っていたR児だが、「そんな人たちとしっかり向き合えるようになりたい。」と感想をもつようになった。R児がどのように他者に対して向き合っていくのか、今後も見守っていきたいと思う。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

- ・海を越えた国々でも人はそれほど変わらないということ
- ・当たり前から外れた事象に出会った時の考え方
- ・自分の世界のとらえ方は、必ずしも相手と同じではないということ

12 苦労した点

- ・単元構築（実際に現地を見ていないため）・他教科との関連性

13 改善点

- ・本時展開計画5の全体交流の際に、児童から「暴力ではない他のやり方で解決すべきだった。」という発言があった。この発言が嬉しかったのだが、時間の都合もあり教師から「他の方法は果たしてあったのか。」と問いかけてしまった。協議会のご指摘通り、ここは児童から出てほしい発言であった。その発言を待つ忍耐が必要であったと痛感する。
- ・学生デモと児童との出会わせ方については未だ正解がわからない。本単元では、たくさんの犠牲者が出たことの事実を先に伝え、その後に主導している学生たちや学生デモに感謝をしている市民の声を紹介した。この順番によって児童の思考や意見が構成されたといっても過言ではない。今回とは別に、被害者、学生たち、市民の声を同時に紹介していたら児童の考えはどのようになっていたのだろうか。同時に入った立場の異なる人の意見を、どのように処理していったのか気になるところである。

14 成果が出た点

- ・児童が世界の事象を多面的に見ようとしている。

バングラデシュの授業後の子ども達の感想には「今は一つの国の話をしているけど、国際問題は世界の中でたくさん起きているから、一人一人の意識を変えて解決したい。」「全てが悪いとは決めつけてはいけない。客観的に見るのではなく内面を見る」「デモを行うには必ず理由があるので、その理由を探したらいい。」「他の国のこともちゃんと考えられる人になりたい。」などの言葉があった。常識や一部の事象にとらわれずに、世界に視野を広げ今後もその背景を考え続けてほしい。

- ・児童が自分の考えを持ち、少人数の中でそれを発信できるようになった。

哲学対話や事象の是非を話し合う際には、「自分の考えを持つ」「少人数で話し合う」「全体で悩みを共有する」「自分の考えをふりかえる」という流れを意識した。瞬発的に考えを話し合うのではなく、自分の考えを持つ時間を十分に設けることで、児童は余裕をもって話し合いに参加することができた。グループのメンバーを何度も変えて話し合ったため、どんな人と同じグループになっても自分の考えを発信できるようになった。

- ・対話を通して自分の考えの変化を自覚できるようになった。

対話の後には、必ず自分の考えをもう一度振り返る時間を設けた。その結果、自分の考えの深まりや変化を自覚できるようになった。今後も自分の考えの正しさを疑い、常に再構築できるようになってほしい。

15 自由記述

児童はバングラデシュの政変から世界で行使されている暴力の意味や立場の異なる人が見る世界について多面的に考えようとしている。では、学級や自分に関する問題はどのように捉えているだろうか。自分事になったとたんに、利己的に考えていないだろうか。この問いは教師である己にも自問し続けていきたいものである。その捉え方に刺激を与えるのは、きっと対話なのだと思う。となりにいるあの子は、今何を考えていて、何を願っているのか、対話をし続けてようやく、それでも微かにわかっていくのだと思う。

異なる価値観、異なる正義を持つ他者との生活の中で起こる問題について、今後も対話を通して様々な視点から向き合い、考えを再構築できる児童を育てていきたい